

# わたしのまちのPR

## 豊能町編



豊能町は、大阪府北部の北摂山地の地域に位置し、東は茨木市、南は箕面市、北は能勢町と京都府、西は兵庫県と境を接しています。都市近郊にありながら、町域の約60%が山林で占められている、自然豊かなまちです。

この豊能町の魅力や特色について、総務部まちづくり課課長の木田さんにお話をお伺いしてきました。



本日はどうぞよろしくお願ひします。

早速ですが、豊能町の歴史を教えてください。

よろしくお願ひします。

現在の豊能町域で人々が生活しはじめたのは、まだ土器が使われていなかった旧石器時代からと推定されます。

町域の東部である旧東能勢村は、12世紀の初め藤原氏の一族である貝川三位長乗が一族を率いて木代に移り住み、ここを拠点に開拓したのが始まりという伝説がありますが、最近の発掘調査で、奈良時代にはすでに人々が生活していたことが明らかになっています。中世には木代庄が、14、5世紀ごろには、木代庄に接して余野、河尻庄もあったようです。近世には余野、野間口、川尻、木代、切畑の各村になり、主として幕府領（高槻藩預かり地）や旗本（能勢氏）の知行地として続き、近代を迎えました。

町域の西部である旧吉川村は、中世は源満仲を祖とする多田源氏の支配地であったといわれ、近世には主として幕府領として続き、幕末には高槻藩預かり地となり、近代を迎えました。

明治22年町村制の施行で、東部地域の5か村が合

併して東能勢村となり、吉川は吉川村となりました。昭和30年町村合併促進法により、東能勢村は茨木市高山を編入、翌31年9月には吉川村と東能勢村が合体合併して新しい東能勢村となりました。さらに昭和33年4月には京都府亀岡市の牧、寺田地区を編入しました。

都市郊外ということもあり、宅地開発に伴って人口が急増し、昭和52年、新生「豊能町」として発足。平成19年4月には、町制施行30周年を迎えました。

豊能町には、史跡や石仏、石塔などがまちのあちこちで見られるそうですね。

はい。南部地域ではキリシタン大名として有名な高山右近ゆかりの高山地区があり、高山マリアの墓、高札場の地蔵石仏など、キリシタン関係だといわれている遺物が遺されています。

高山マリアの墓



東部の各地域では、鎌倉時代から江戸時代にかけての素晴らしい石造美術が見られ、自然石にほとんど手を加えていない、野趣豊かな石仏が数多く見られます。

西部地域では、吉川高代寺と妙見山参道沿いに、すぐれた石造物が散在しています。千年の歴史を持

つ高代寺には約650年前に造られた五輪塔が建ち、江戸時代の日蓮宗信仰に始まる妙見山の参道には、約350年前に建てられた、江戸期の味わいをもった六地藏が建っています。

豊能町の名所を教えてください。

今、述べたような石仏・石塔だけでも、町内に35箇所もあります。また、豊能町の魅力の一つでもある“自然”あふれる風景の名所もあります。

まずは、「コスモスの里」です。十数年前に花の好きな愛好家が始め、今では全国に名が知られるようになりました。総面積約1ヘクタールの園内に咲き競う濃淡ピンクや白のコスモスは、およそ数百万本。大人の背丈ほどもあり、来場者は遊歩道を進みながら秋の風情を満喫できます。ところどころに設置されたベンチでひと休みしたり、奥には松林の空き地が広がり、お弁当を食べることもできます。

コスモスの里



また、約450種類もの草花が自生し、春夏秋冬それぞれの趣を見せる初谷川の溪谷は、「大阪みどりの百選」にも選定されました。豊能町では、ホームページやガイドブックでハイキングコースを紹介していますが、その中でも特に初谷溪谷は豊かな動植物を堪能できる初心者にもお奨めのハイキングコースです。道も整備されており、途中の川原では家族連れがバーベキューをしている光景も見られます。この辺りは、低山からブナ林に至る多くの種類の動植物を見ることが出来るため、自然環境保全地域や鳥獣保護区に指定されており、バードウォッチングなどにも最適です。

ブナ林で名高い能勢妙見山は、「日本の夕日百選」

にも選ばれていて、夕日はもちろん、晴天の日には遠く明石大橋まで見渡せる、非常に景色のよい場所です。古くから信仰の山として親しまれている妙見山は、山門が大阪府と兵庫県の境になっています。標高は662mで山頂までは上杉尾根、新滝道など多くのハイキングコースがあり、ケーブル、リフトなどもあるため、様々なルートで楽しめます。

山頂には広い駐車場や展望台があり、素晴らしい展望が楽しめます。

ぜひ、豊能町にお越しの際は、緑の山並み、野の草花、里にたたずむ野の仏と出会ってください。

能勢妙見山



四季折々の自然を満喫できる、自然豊かなまちですね。

豊能町では、自然を生かした「ふれあいファーム」という取組をされているそうですね。

豊能町では、高山地区のまちづくり事業の一環として、自然環境や地域資源を活用して、各種体験・交流事業を実施することにより、地域の活性化につながっています。その取組の1つが、「ふれあいファーム」です。農の魅力を感じてもらうため、豊能町在住または在勤の方に、田植えから収穫まで、農作業を体験していただいたり、安心・安全なおいしい野菜づくりに挑戦していただくものです。参加者の方には、月1回から2回、年間10回程度農作業に参加していただき、その体験を通じて、農業の大切さや自然の営みなどを楽しみながら学んでいただけます。豊能町の豊かな「みどり」にふれていただき、参加者の方と地元農家の方々との交流をもっていただくことで、郷土心を培うことにもつながります。

自分たちが作り育てた農産物や地元農産物を実際に味わうことで、「食」や、「地産地消」について考えていただく食育にもつながればと思っています。

ふれあいファーム（田植え）



なるほど、地域の特性を活かしたまちづくりに取り組まれているのですね。地元の農産物の特産品について教えていただけますか？

はい。豊能町の特産品としては、豊能町で収穫されたお米「きぬひかり」や「かあちゃん漬け」「かあちゃん味噌」、なにわの伝統野菜に認定されている高山真菜を使った「真菜漬け」、「能勢路納豆」などの農産物加工品があります。また、最近では、きれいな水と空気を利用して、健康野菜の「ヤーコン」を特産物として栽培しています。

ヤーコン



かあちゃん味噌



ヤーコンは、南アンデス原産のキク科の食物で、形はサツマイモとそっくりで、生で食べることもできますが、炒めたり、煮たり、加熱調理もできます。みずみずしく歯ざわりがよく甘みがあり、梨とレンコンの間のような味です。クラフトオリゴ糖の含有量が野菜一、ポリフェノールや植物繊維も豊富に含まれており、整腸作用などもある健康野菜として期待されています。「ふれあいファーム」で、畑でつくる野菜の一つとして、栽培しています。

豊能町の特産品を是非一度、ご賞味ください。

健康野菜として、今後注目が高まりそうですね。次に、豊能町の風物詩を教えてくださいませんか。

豊能町では、毎年3月に「高山真菜まつり」が行われ、真菜つみを楽しみます。真菜は300年前から高山地区で栽培されている伝統野菜であり、ビタミンをはじめとした栄養価抜群の野菜と言われています。「高山真菜まつり」では、地元の方々の手作りの山菜おこわや、つきたてのよもぎ入りあんこもち、地元の新鮮な野菜の販売等も行っています。

高山真菜まつり



秋には「ふれあいコスモスまつり」が行われ、町外からも数多くの方が訪れます。観光名所でもある「コスモスの里」やその周辺で、出店や新鮮野菜の直売会、地元中学校の吹奏楽部による演奏や小・中学校PTAの催し物など、地元住民で結成された実行委員会によって主催されています。

また、農業祭や文化展、とよの大好きフォトコンテストなど多彩な催しが展開される「豊能町民祭」、各神社のおみこしを町民が担ぎ、稚児がのって太鼓を打ち鳴らし、村中を巡る伝統行事の「秋祭り」な

## 市民まつり



ども大変盛り上がる秋の風物詩で、地域や世代を越えた交流の場となっています。

住民の方々との協働でイベントが行われているんですね。他に、住民との協働で行われている事業はありますか？

平成16年度より、幼稚園、小・中学校でそれぞれの実情等に応じた重点目標に取り組むオンリーワン・スクール事業に取り組んでいます。この事業の1つとして、小・中学校において、地域ボランティアの支援により、学習やスポーツ・文化活動等に取り組んでいます。地域のサポーターが学校教育活動に参画することにより地域と共に協働して、子どもの生きる力を育て、地域との関わりを強化しながら学校を元気にするものです。サポートボランティアの方には、授業の支援はもちろん、林間学舎でのレクリエーション指導、校外学習での引率や、登下校時の安全指導など、子どもの安全確保にも協力いただくなど、幅広く活躍いただいています。

また、「花いっぱい運動」では、住民ボランティア

## 花いっぱい運動 花の植え付け



や中学生などの手によって、町内の花壇に花が植えられ、水やりや除草などの世話が続けられており、花と緑があふれる環境づくりにつなげるとともに、住民同士の交流の場にもなっています。

このように、地域社会に貢献するボランティアの方々や、NPO（民間非営利団体）が、行政とともにまちづくりの担い手として、自立した活動ができるように支援するために、豊能町では、講師の派遣や情報提供を行う住民参加促進事業も行っています。

住民協働を進め地域の視点を反映させながら、まちづくりにつなげているのですね。  
最後になりますが、今後の抱負を教えてください。

豊能町は、まちの将来像を「住みたいまちナンバーワン」と設定し、「住んでよかった」、「住んでみたい」と思ってもらえるような魅力のあるまちづくりを進めています。そして、第三次豊能町総合計画（2001～2010年）では、4つの基本構想①「一人ひとりが輝くまちへ」②「健康で安心して暮らせるまちへ」③「うるおいと環境共生のまちへ」④「活力と働きがいのあるまちへ」をまちづくりの目標として設定し、様々な施策を展開しています。また、第四次総合計画策定事業として、昨年豊能町総合計画審議会において行った基礎調査や事業検証をもとに、本年度は基本構想の策定作業を行う予定です。

今後は、住民の意見を政策等に反映させる「豊能町政策アドバイザー会議」を創設し、未来に向けた地域の活性化施策について議員や住民の方々から提案をいただき、具体化できるよう調査検討を行うなど新たな取組を展開していきます。

そして、豊能町に生まれ育ち、住んで良かったと思われるまちづくり施策を展開していきたいと思っています。

「住みたいまちナンバーワン」に向けて一層躍進されることを期待しております。

本日は、お忙しい中、ありがとうございました。